

研究課題の名称

セフメタゾール投与中の入院患者における PT-INR の延長発現時期に関する調査

研究の目的及び意義

近年、検出頻度が増加傾向にある ESBL 産生菌による感染症の治療には、カルバベネム系抗菌薬やセメタゾール(CMZ)等のセフアマイシン系抗菌薬が使用されている。カルバベネム系抗菌薬の汎用は、さ、なる耐性菌の出現を招く可能性があり、原因菌の感受性結果をもとにカルバベネム系抗菌薬からより狭なスペクトラムを示す CMZ が使用されることが多い。CMZ を含むセフアマイシン系抗菌薬は N-methylterazole thiol(NMTT)基を有し、ビタミン K 工ポキシドリダクターゼを阻害することでプロトロンビン時間を延長することが知られている。

当院でも 2016 年に CMZ 投与患者において重なる出血イベントを 3 例経験した。それを受け 2017 年 1 月より CMZ 投与患者において定期的な PT-INR の測定を開始した。しかし、PT-INR の延長発現時期は明らかではなく、PT-INR の過延長を早期に発見し血液凝固障害の重篤化を防止出来ているとは言い難い現にある。そこで、CMZ 投与中の入院患者における PT-INR の延長発現時期に関して調査する。

研究対象者の選定方針

2017 年 1 月 1 日から 2019 年 12 月 31 日の間に、洛和会音羽病院の入院診療において CMZ を 14 日間以上継続処方された患者

研究予定期間承認日 (2020 年 4 月 21 日) から西暦 2021 年 3 月 31 日